



奉仕団ニュース

社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団

URL: <http://www.jcws.or.jp/houjin/houjintop>

第35号 2022年11月

Tel 03-3202-0486

Fax 03-3202-0487

小さな気づきが大切

理事長 わたなべ きょう 渡辺 教

2022年も年末を迎えようとしております。夏からのコロナ禍第7波も次第に収束し、制約も緩和されて町や観光地では人出で賑わいも戻ってきているようですが、XBB,BQ.1.1といった新型変異株も確認されており、今年の冬はインフルエンザとの同時流行が心配されまだまだ注意が必要なようです。

奉仕団もコロナ感染症防止で活動が制限されてから、各施設は殻に閉じこもったように感染の防御に明け暮れてきましたが、ようやく落ち着いた日常をとり戻しつつあります。

アガベセンターでは利用者一人一人の特性やニーズを大切に近隣の方々との交流を図って参りましたが、この2年半の制約は利用者、保護者の方たちには大きな痛手となりました。特に壱番館ではこの夏のコロナ感染の第7波の影響を大きく受けました。感染防止対策に加えて人手不足が加わり今年度もあわただしい状況が続いております。この間職員の方たちが負った多大な苦勞に感謝いたします。アガベ東京センターでは国立国会図書館の休館や入場制限により業務が制限されていた複写受託の仕事も今年は需要が戻りつつあります。新宿福祉作業所でもセンター祭が3年ぶりに開催されるなど徐々に元の環境が戻ってきました。B型の通所施設では感染防止に配慮をしつつ安定して事業を継続することができました。またアジア研修交流事業では今年度は2年ぶりに5月にコロナ禍の合間を縫ってモンゴルから研修生を招き研修を行うことができ、11月にも今年2度目の研修生をモンゴルから迎えて開催することができました。訪問した施設の方々、通訳のオドゲレルさんはじめご協力いただいた皆様に感謝いたします。

2021年度の決算では、収益は法人全体で17億7千万円と前年度より2千万円増加、費用は18億2千万円と前年度と同水準となりました。これにより経常増減差額は前年度より2千万円改善したものの4千万円のマイナスとなりました。各事業の収支体質

改善を進めておりますが、コロナ禍による経費の増加や、特にアガベ壱番館では人手不足などから労働面、収支面両面の体質改善が今後の課題となっております。東京センターでは板橋福祉工場A型事業の収支改善に向けた効率化により体質の改善が進みましたので、今後就労継続支援B型事業での充実、拡充が課題となっております。

コロナ禍にあって、私たちは少なからずとも、内にもり外に向けた行動が減ったようです。

ニューヨークのビル街に滝を作るなど、とてつもない芸術作品を作るデンマークの芸術家オラファエリアソンは、「頭の中の知識だけでなく実際の行動が必要、その行動から創作につながる。作られた芸術は単なる娯楽ではなく社会への参加、またそこに生じる責任の分担に繋がる。自分自身の行動を変え、自分が気づきの問題にどう関われるかを考えよう。気づきを巻き起こすことにより世界は少しずつ変わっていく」と言っています。

私たちの生活は物や情報の洪水の中で戸惑いを感じつつ様々な管理システムを作りそれに頼り、自らが気づき行動を起こすことが減っています。奉仕団では利用者の方たち、職員、近隣の方たちなど周囲に対するキリスト・イエスの無償の愛（アガベ）の実践を目指して、役職員一同、日中活動の中での小さな気づきから自分自身の行動を少しでも変えられたらと願っております。障がいの有無にかかわらずみんなが安心して生活できる平和な世の中が早く来ることを願っています。「主イエスの恵みが、すべての者とともにあるように（ヨハネの黙示録22-31）」という聖書のみ言葉を頼り、奉仕団のビジョンである「共に生き、共に歩む」の実現に向けて進んでいきたいと思っておりますのでこれからも日本キリスト教奉仕団の活動にご理解とご支援をお願いいたします。



アガペセンター総務課のはたらきについて

アガペセンター事務長 坂口 健

今回、法人事務局より依頼を頂きましたので、アガペセンター総務課のはたらきについて、ご紹介をさせて頂ければと存じます。

総務課はアガペセンター利用者、職員の生活・暮らしを間接的にサポートする部署であり、「人事・研修」「庶務」「会計・請求」「施設管理」「運行」「食事・栄養」とそれぞれが専門性を持って業務に臨んでいます。「人事・研修」「庶務」については職員の雇用や定着、福利厚生、社会保険の各種申請手続き等、主に職員を支える仕事をしています。

「会計・請求」「施設管理」「運行」「食事・栄養」については利用者利用料の代理請求や利用者の生活・活動場所のメンテナンス、利用者の病院送迎、毎日の食事提供等、主に利用者を支える仕事をしており、利用者に直接携わる機会は少ないですがセンターの運営を支える重要な役割を担っている部署となります。



昨今はコロナ禍による労災手続きやかかりました費用の請求、突発的な受診送迎等の増加に加え、物価高騰に於ける食材費のやりくりや施設管理の維持等、総務課業務も多岐にわたっております。

そのような業務過多の中でも総務課業務の基本である来客、電話応対に於いては、笑顔絶やすことなく、今後も相手にとって気持ちの良い職場環境に努めていきたいと思っております。

診療所看護師の役割と魅力

アガペ診療所 菅原 順子

看護師の職場といえば病院です。看護師の73%は病院勤務をしています。診療所勤務をしている看護師は11%だそうです。診療所での看護師としての役割は、病院とは大きく異なっています。

看護師業務には大きく2つの役割があります。1つは「診療の補助」。2つ目は「療養上のケア」です。ピンとくると思いますが、診療所や施設で行われる看護業務は「療養上のケア」の割合が多くを占めます。食事や入浴、排泄介助など日常生活を快適に過ごせるように援助を行います。特にリスクがある方は看護師の視点を持ってケアを通し状態変化を感じ、医師への相談・医療機関へのパイプ役を行っていくことが重要な役割になってきます。

そして看護師には「健康増進」「疾病予防」「健康回復」「苦痛緩和」の4つの求められる責務があります。利用者様の

背景を理解して身体的苦痛、精神的苦痛、社会的、心理的な問題を捉える努力をしていくことが大切だと感じます。

病院での看護は退院後の生活に関われません。一人一人とじっくり向き合った看護がなかなか出来ずに、もどかしさを感じる事が多くありましたが、施設の中の診療所業務は病院看護師と比べ医療ケアを行う場面が少なく、健康管理が中心の看護業務であり介護士と連携しながら入居者様のサポートを行います。又、中長期的に利用者様と向き合うことが出来、時には利用者様の人生に大きく関わる場面に出会うこともあります。病院では経験できない施設診療所ならではの寄り添うような看護が出来る事が大きな魅力なのだ日々感じています。

地域支援課紹介

サポートセンターI施設長 府川 孝臣

地域支援課は、今年で二十四年目に突入しました。

生活介護事業として、主に送迎・入浴・食事・プログラムを提供しています。そのサービスも生活に必要なサービスですが、その中でも、プログラムに力を入れています。

コロナ禍以前は、外出プログラムを精力的に展開していました。近隣買い物、近隣散歩、利用時間内で行き来ができるショッピングモールへの買い物、桜や向日葵、彼岸花(曼殊沙華)を見にドライブ、初詣、ハンモックグループでの公共交通機関利用体験の電車でGO!、そして春・秋の遠足などです。特に春・秋の遠足は、遠くは、山梨県勝沼市へのぶどう狩りや川口湖オルゴール美術館、静岡県富士市の花鳥園、羽田空港などを訪れました。神奈川県内では、電車を利用して箱根湯本や鎌倉観光、車で三浦半島や横浜各所にも訪れました。ハンモックグループにおいては、八景島シーパラダイスへ泊旅行にも行きました。

それぞれ企画段階から時間をかけ、利用者の方に楽しんで頂けるよう、細かく準備をしていました。

しかし、コロナ禍となり、全ての外出企画を見合わせる事態となりました。もちろん、これまでも室内プログラムも提供していましたが、やはり、利用者の方にとって、普段できない外出プログラムを楽しみにしておられる方が大勢おり、状況は理解しているけど、どこか物足りなさそうな表情を浮かべておりました。そこで、外出はできないけれども、少しでも外出気分を味わっていただけるよう、プログラムを工夫しました。秋の大収穫祭、なんちゃってぶどう狩り、利き茶ならぬ利き○○、二人場織、オオカミ少年ゲームなど、利用者とスタッフが一緒になって楽しめるプログラム展開を続けています。

今後は、コロナの状況を鑑みながら、少しずつ外出プログラムの機会を増やし、一層、利用者の方に楽しんで頂けるプログラム提供をしていきたいと考えています。

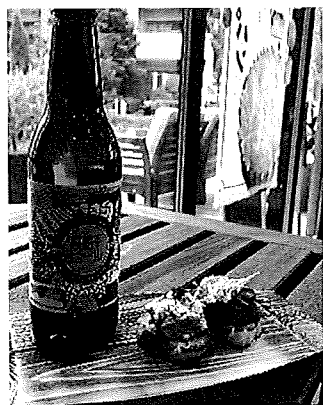
アガペ東京センター

2022年9月に入り、新型コロナウイルス感染症は落ち着きを見せてきたように見えます。東京センター各事業所では、大きな感染の拡大もなく通常の活動を取り戻しつつあります。感染症の社会全体としての拡大といった、かつて経験したことのないような大きな変化を実際に体験してもう2年余りになるのですね。・・目に見えないウイルスとの戦いを通じて、様々なご理解、ご協力をいただきました。毎日の検温、発熱に伴う通院と療養、マスクの着用や手指の消毒、建屋内部の消毒や清掃、外出を控えること等、皆様の細かなご配慮、ご協力により全体としての感染者数の低減や罹患症状の軽微化がもたらされたと感じ感謝に堪えません。

一方グローバル経済の影響や、現在東欧で起きている憂慮すべき事態によりエネルギー需給がひっ迫、電気料金を筆頭に諸物価の高騰が非常に身近なものになり素早い対応を迫られています。人類史を「挑戦と応戦」として記述した高名な英国の歴史家がおられますが、東京センターも新たな課題（挑戦）にひるむことなく、皆様と共に生き・共に歩む事業体であり続けたいと思います。今後ともよろしく願っています。

東京都板橋福祉工場

2022年の年明けに成人式を行いました。昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のために人数制限をした利用者職員のみで行ったのですが、今年は制限しながらも保護者の皆様を招いて行いました。涙ぐまれるシーンがあり、少ない人数ではありましたが、心に残る式になりました。



4月に新卒者4名を迎え新年度がスタートしたのですが、翌月の5月にコロナ陽性者が利用者、職員と合わせ複数名出てしまいました。最初の陽性者の連絡を受け即、ご家族に向けて要注意を周知し、翌日は「鼻づまりがする」「だるい」「のどに違和感がある」等、発熱がなく軽い症状の利用者にもお休みをして頂きPCR検査を受けるようお願いをしたところ、ほとんどが陽性者で、そのまま自宅待機して頂きました。事態が長引かず

に済んだ事は、軽症ながらも検査にご協力頂いたご家族のおかげだと思います。

MONICAです
が以前より、「土曜日
も営業してほしい」と
のお客様のご要望が
あり、夏休み限定で土
曜日営業を実施しま



した。高島平には地ビールがあり（写真参照）、この機会に期間限定として取り入れ集客を図りました。地域の子育てサークルイベントとのタイアップ（写真参照）もあり、今までに見たことがない賑わいにお店の成長が伺え、地域の皆さまに育てて頂いていることを実感いたしました。感謝の気持ちでいっぱいです。

5月には医療連携のサービスをスタート。毎日、訪問看護師が来所し、利用者の体調や心境の変化を看ただいています。また1月から今まで（10月）の間、大学や専門学校で社会福祉士を目指す実習生6名（1名≒24日間のプログラム）を受け入れました。外部の人達との関わりが増え、コロナ禍の閉塞感から少しずつ脱却、施設が活性化してきました。また、利用者様2名をGHにつなげる支援をさせて頂きました。これからも地域や外部の関係者とのつながりを大切にしていきたいと考えております。

国立国会図書館複写受託センター

国会図書館複写受託センターには現在障がい者職員4名を含む正職員13名、非常勤職員59名が在籍しており、法人の公益事業として国会図書館における利用者への資料複写業務全般を行っています。

コロナ禍による国会図書館での利用制限ですが、平日では予約なしに来館できるなど利用制限も緩和されてまいりました。土曜日のみ午後の来館は事前申し込みが必要ですが、午前中からの入館は予約無しで可能です。この利用制限緩和をうけて大変多くの閲覧利用者が日々来館されております。

それにともない資料複写サービスの利用数も増加しております。また、来館しなくとも国内外から資料複写が可能なサービスもあり、こちらの利用数はコロナ禍でも増えております。

新型コロナウイルスの感染予防に努めながら、利用者

に安全と安心のもとサービスを提供できるよう運営に取り組んでおります。

新宿区立新宿福祉作業所

新宿福祉作業所は就労継続支援事業B型と生活介護の多機能型事業所として、現在64名(定員75名)の方が利用されています。2007年4月から指定管理者制度による運営を行い16年目を迎えました。

現在も新型コロナウイルスは完全に終息したわけ



はありませんが、国内ではイベントや旅行の再開、屋外でのマスク着用についての緩和等、一步一步日常を取り戻し、withコロナとして生活をしていかなければならない状況です。

昨年は近隣のイベントや作業

所の行事も中止や縮小となっていました。今年9月以降、近隣のイベントが再開し事業所のパンや焼き菓子のご注文を多くいただきました。10月は5か所のお祭りに出店し販売させていただきました。

お祭りに出店した際には、「以前買ったことがあり美味しかったから買いにきました。」「家族にも食べさせたいので沢山買っていいですか。」「とお声をかけていただきとても嬉しい気持ちになりました。

地域のお祭りに出店できることは、作業所のことを知っていただくきっかけとなります。利用者さんも販売員となって、お客様と触れ合い働くことの楽しさや充実感を得ることができます。また、障がいへの理解や地域で安心して生活できる地域共生社会の実現にも繋がります。久しぶりに再開した地域のお祭りやイベントを通して、人との繋がりの大切さを改めて感じることができました。

現在、作業所では利用者さんの持っている力を引き出し、作業で活かすことや商品化するプロジェクトを行っています。手先が器用な方、絵が上手な方、綺麗好きな

方、体力自慢の方、お話が上手な方など様々な個性を持っている方が多くいらっしゃいます。利用者さんの良いところ、強みを伸ばしていく、そして楽しく作業所で過ごしていただけるよう作業とアクティビティの充実を目指しています。

高齢化・重度化という課題はありますが、今できること、今しかできないことがあります。人生楽しみたいというのは誰もが思うことです。作業所も一人一人に合った支援や環境が大切だと感じています。

板橋区障がい者就労支援センター

板橋区障がい者就労支援センター ハート・ワークは板橋区にお住まいの障がいをお持ちの方が、職業に就き、社会参加が出来るよう就労支援を行う事業所です。主な支援内容としては、相談、実習、就労準備、面接同行、通勤、職場適応、定着などが主な支援となっています。新型コロナウイルスの感染による事業への影響は今年度ほとんど無くなりましたが、今後の感染再拡大を見込み、プログラムの修正を始めています。以前は定期的に集まってお互いの情報交換をする“しゃべり場”というものがあり、企業に就労した後、アイソレートしがちな障害を持つ方々が、つながりを持てる場所がありましたが、コロナの関係で難しくなりました。また、体を動かす運動会やボーリング大会も多くの参加者がありましたが、ここ2年以上出来ていない状況です。このようなプログラムは就労定着のためのエキスのようなもので、再開を望む声が多くありました。この中でボーリングは来年1月に開催することとしました。以前のように大勢が集まることはまだできませんが、数回に分けての実施となります。これ以外にも、芸人さんとダンスを一緒に楽しむイベントも行いました。非常に好評で今後も継続していきたいと考えます。また、“カフェこすもす”では実習を再開し、早々申し込みが来ています。形は色々変わりますが、就労支援が継続して出来るよういろいろな試みをしていきたいと考えます。

2022年9月末現在の状況は以下の通りです。

当月末現在登録者数 1,032名

当月末現在就職者数 668名

2022 年度アジア研修交流事業の報告

モンゴル5か年計画の2年目としてのアジア研修交流の実施

「アジア研修交流事業」では、1980年以來からアジアの諸地域より障がい者福祉事業者を日本に招き、当奉仕団の福祉施設や近くの障がい者福祉施設を視察し、障がい者支援における研鑽を深めていただくという交流を行ってきました。

これまでに、アジア15の国や地域から84名の研修生を受け入れてきました。「モンゴル5か年計画」の1年目として昨年度実施する予定のアジア研修は、コロナ禍による影響のために今年の5月～6月に延期して実施いたしました。ウランバートル市に住む「エネレル障がい者職業訓練校」副校長であるアディヤスレン ウヤンガさんを研修生として日本にご招待しました。日本での3週間の研修を終えてモンゴルに戻ったウヤンガさんは、地元のテレビに出演したりしながら障がい者の養育、就労支援、介護サービスなどの啓発活動、また具体的な福祉サービスの実施や向上に向けた働きを続けておられます。

さて、2022年度のアジア研修交流事業では、同じくモンゴルから1名の研修生を招くことになりました。8月にウランバートル市にある障がい者施設を中心に研修生を公募した結果19名の応募者があり、その中からバトスフ ナランジャルガルさんを研修生としてお招きすることになりました。



アジア研修に來日された
ナランジャルガル研修生(左側)

ナランジャルガルさんは、今年の1月からモンゴルダウン症協会の経営責任者に就任され、モンゴルにおける知的障がい者の福祉向上に取り組んでおられます。以下が彼女の志望動機です。「私にはダウン症の4歳の子供がいます。モンゴルのダウン症や知的障害のある子供や若者への教育、健康、雇用、人権などの政策や社会的態度に、日本がどのように取り組んできたかの経緯や経験から学び、自国の社会的・文化的特徴に合わせて適用していくこと、また、非政府組織の活動、知識、経験を深めながら運用していくことで福祉の向上を計りたいです。」

11月4日から25日までの3週間のアジア研修プログラムでは、当奉仕団のアガペセンター内のゲストルームに宿泊して各種施設や他団体の10か所以上の障がい者福祉施設を視察見学致します。

この事業は、すべて皆さまからの寄附金や献金によって運営されています。これまでに温かいご寄附や献金をお送りくださった方々に心から御礼を申し上げます。今後ともこの事業の働きを覚えてくださり、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

法人事務局

2021年度の法人本部の主な動きについてご報告いたします。

・理事、監事、評議員の状況について

評議員の岡谷 重雄氏が2021年11月5日付で辞任されました。

その後任に金井 之広氏が11月8日付で評議員に就任(任期は、2025年6月定例評議員会終結時まで)されました。

2021年2022年度上半期にわたり、理事会、評議員会は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からすべてZoomでの開催といたしました。

今年度も、新型コロナウイルスの影響により、法人全体での新入職員の辞令交付式は中止となりました。

新入職員研修会は、4月4日に例年のように対面で実施することが出来ました。

1. 法人の概要

名称 社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団
 所在地 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 代表者 理事長 渡辺 教
 常務理事 小松田 貞利
 理事 井殿 準 佐々木 章吾 園崎 秀治 田口 努 田中 誠一 毛利 龍夫
 監事 後藤 省二 西原 良信
 評議員 鹿村 洋人 川浦 弥生 金井 之広 小出 千鶴子 鈴木 寛 野口 美加子
 牧 由希子 宮本 和武 百瀬 一成 山尾 研一 山田 秀樹

2. 事業の概要

①第一種社会福祉事業

・アガベ壹番館：障害者支援施設（施設入所支援・生活介護・短期入所） 神奈川県座間市小松原 2-10-14

②第二種社会福祉事業

・東京都板橋福祉工場：障害福祉サービス事業（就労移行支援・就労継続支援A型及びB型事業） 東京都板橋区高島平 9-42-7
 ・アガベ作業所：障害福祉サービス事業（就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援） 神奈川県座間市小松原 2-10-14
 ・アガベサポートセンター：相談支援事業（一般・特別）「受託経営」 同
 障害福祉サービス事業（生活介護・短期入所） 同
 ・座間市障がい児・者基幹相談支援センター：支援事業所・相談支援事業所等の聴く、考える、
 学ぶ、地域ネットワーク業務「受託経営」 神奈川県座間市緑ヶ丘 1-2-1
 ・座間市立もくせい園：障害福祉サービス事業（生活介護）「受託経営」 神奈川県座間市栗原中央 6-7-27
 ・座間市サニーキッズ：障害福祉サービス事業（児童発達支援事業）「受託経営」 神奈川県座間市緑ヶ丘 1-2-1
 ・新宿区立新宿福祉作業所：障害福祉サービス事業（就労継続支援B型・生活介護）「受託経営」 東京都新宿区戸山 1-22-2
 ・スマイル：障害福祉サービス事業（共同生活介護） 神奈川県座間市相模が丘 2-32-24

③公益事業

・国立国会図書館複写受託センター 東京都千代田区永田町 1-10-1 国立国会図書館内
 ・アジア研修交流事業 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
 ・アガベ診療所 神奈川県座間市小松原 2-10-14
 ・板橋区障がい者就労支援センター運営事業 東京都板橋区前野町 4-16-1
 （2022年11月1日現在）

2021 年度決算概要

2021 年度決算概要は以下の通りです。詳細は、ホームページをご覧ください。

貸借対照表

2022年3月31日現在 (単位：円)

資産の部		負債の部	
流動資産	542,656,306	流動負債	278,479,946
		固定負債	339,818,063
固定資産	2,012,552,862	負債の部合計	618,298,009
		純資産の部	
		基本金	53,665,544
		国庫補助金等特別積立金	1,284,002,148
		その他の積立金	163,088,785
		次期繰越活動増減差額	436,154,682
		純資産の部合計	1,936,911,159
資産の部合計	2,555,209,168	負債及び純資産の部合計	2,555,209,168

資金収支計算書

2021年4月1日～2022年3月31日 (単位：円)

勘定科目	決算
事業活動収入計	1,779,037,606
事業活動支出計	1,782,347,817
事業活動資金収支差額	△ 3,310,211
施設整備等収入計	8,260,512
施設整備等支出計	25,168,047
施設整備等資金収支差額	△ 16,907,535
その他の活動収入計	11,903,994
その他の活動支出計	16,012,211
その他の活動資金収支差額	△ 4,108,217
当期資金収支差額合計	△ 24,325,963
前期末支払資金残高	304,016,069
当期末支払資金残高	279,690,106

事業活動計算書

2021年4月1日～2022年3月31日 (単位：円)

勘定科目	決算
サービス活動収益計	1,773,621,487
サービス活動費用計	1,821,567,263
サービス活動増減差額	△ 47,945,776
サービス活動外収益計	5,416,119
サービス活動外費用計	6,610,177
サービス活動外増減差額	△ 1,194,058
経常増減差額	△ 49,139,834
特別収益計	8,279,208
特別費用計	9,525,220
特別増減差額	△ 1,246,012
当期活動増減差額	△ 50,385,846
前期繰越活動増減差額	486,626,519
当期末繰越活動増減差額	436,240,673
基本金取崩額	0
その他の積立金取崩額	27,887
その他の積立金積立額	113,878
次期繰越活動増減差額	436,154,682